

業種	地方自治体
活用分野	救急隊の医療機関選定支援
テクノロジー	スマートフォンアプリ

## 迅速な救急搬送へ 広域連携スマホアプリ

急病人を病院に搬送する救急隊は、市町村の消防機関が運営する。しかし搬送先の病院は市町村区域にかかわらず選定される。その結果、空いている医療機関を探して電話を重ねるケースも多く、搬送先決定までに時間がかかることもしばしばである。

そこで救急隊と救急病院の情報を広域共有しようと構築されたのが大阪府の「ORION」である。

「ORION」では、大阪府内の医療機関の受け入れ状況や診療情報を集約してデータ化。府内の救急隊がスマートフォンアプリから確認できるようにした。

一方、急病人の状況や選定した搬送先病院など、救急隊が記録した救急要請から搬送までのプロセスもデータベースに記録する。大阪府の人口は約880万人であり、これだけ多くの対象人口規模で、緊急搬送に関するデータを蓄積・検証・分析するのは画期的な取り組み

である。

2013年春の運用開始後は、前年同時期に比べ搬送人員数が約2000人増加したにもかかわらず、搬送先決定までの病院への連絡を5回以上行ったケースが約200件削減されている。

救急隊は通常の急病人搬送のみならず、大規模な災害発生時にも出動する。災害時は急病人が多数にのぼり、トリアージや搬送先選定など、通常以上に正確な情報収集と判断が求められる。

「ORION」では、普段利用するアプリのインターフェースのまま、災害時専用アプリに変更できるよう開発した（災害用は画面が赤ベースになり、トリアージなどの項目が出る）。慣れた操作性で、緊急時の情報収集と判断をサポートする。

図 大阪府内の救急隊と医療機関の情報共有アプリ「ORION」

急病人の搬送・受け入れ基準をスマートフォンアプリ化して標準化。病院の受け入れ状況もわかる

災害時は普段の使用感を変えずに災害用アプリに

